

【校歌】 前回の協議概要

校歌（歌入り）を試聴し、校歌歌詞（仮）についての教職員の意見感想を資料として協議を行った。部会での意見を作詞者、作曲者に伝えた上で調整をお願いし、再度、部会での検討をおこない準備委員会で試聴するように進めていくこととした。

◎主な意見

【歌詞について】

- ・教職員の意見と同様に感じた。※前回部会の資料4を参照
- ・「古びたトンネル」は、実際に無い箇所のため情景が浮かばない。
- ・「古びたトンネル」は、これまでの学校の比喩なのではないか。
- ・花の名前が多い。なじみの無い花の名前が並んでいる。
- ・アンケートで多く意見されている「筑波山」や「霞ヶ浦」を歌詞に入れて欲しい。
- ・小学校の名称が入ったほうが良い。

【曲について】

- ・合唱曲のような感じがする。
- ・小学生には難しいのではないか。中学生・高校生が歌うような感じがする。
- ・落ち着いた感じがするので、もう少し元気な明るい感じが良い。

【その他】

- ・2番までであったが、3番までとなると長いのではないか。
- ・最後にサビの部分を繰り返すぐらいの曲の長さではどうか。
- ・卒業した後に良い校歌だと感じられるような重みがあると良い。

小川南小学校 校歌 歌詞（仮）

1. みんな ともだち 出逢ったあの日を覚えてる 薫る橘 小川のせせらぎ 古びたトンネル くぐれば ほら あの笑顔が待ってるよ	2. みんな とくべつ 朝顔 向日葵 千寿菊 サルビア 浅沙 百日草 どの花も名前を持つように 君にも生まれた意味がある
ああ 虹色の飛行機に乗って 君とどこまで行こう 出逢い 別れ また出逢い どんな未来を旅しよう	ああ 夢色の空に向かって 今 高らかに歌おう 泣いて 笑って また泣いて どんな想いを分かち合おう

**コンセプト① 【作曲家・三善晃へのオマージュ】**

日本を代表する作曲家である三善晃は、特に詩人・宗左近と共にたくさんの素晴らしい校歌を遺しました。

千葉県の旧幕張西高等学校のものを 15 年前に聴いた時、わたしの中の「校歌観」に大きな変化がもたらされました。

その後、既に三善晃以前から山田耕筰・北原白秋コンビなど、著名な作曲家や詩人が数多くの校歌を遺したことを知ることとなります。

東京、神奈川、千葉、福島、宮城、岩手、新潟、秋田など全国各地に三善晃の校歌は存在します。(茨城県内・・・茗溪学園)

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

『あえて行進曲調ではない合唱曲調の校歌を模索したい』

**コンセプト② 【今ある風景を歌詞として遺す】**

旧校歌が作られた時に、後に茨城空港が建設されると想像していた人はどれくらいいたでしょうか。

また、校庭や敷地内に育つ草花や、授業で取り組む栽培活動など、子どもたちを取り囲む自然にも、少しずつ変化があったはずです。

休み時間に遊んでいた遊具たちは、もう当たり前ではなくなります。

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

『現代の地域を象徴する空港や慣れ親しんだ自然風景を採り入れたい』

**コンセプト③ 【児童の想いを尊重】**

事前の調査データだけで歌詞を創り出すことは、とても難しい作業でした。

「明るい」「楽しい」「さわやかな」「笑顔あふれる」、そんなメッセージが多かったですが、子どもたちの本当の気持ちや感覚にこそ寄り添いたいと思いました。

「中学校に進学しても、もう運動会などの行事で遊びにくることができなくて寂しい」

「幼稚園を卒園して離れ離れになってしまった子たちとまた同じ小学校に通えるのは嬉しい」

新しい生活や環境への期待や喜びに対して、不安や寂しさ、切なさといった気持ちも入り混じっているのを強く感じました。

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

『期待と喜び、不安と切なさ』

## 小川南小学校校歌 作曲コンセプト

作曲：田川めぐみ

第一に「新しい学校」をテーマに校歌のスタイルを築こうと考えた。  
所謂今の「校歌」というイメージは昭和初期に作曲されたものが「校歌スタイル」として根付いている。具体的には軍歌のような戦後を彷彿とさせる付点のリズムや行進(マーチ)のような伴奏スタイルである。

長く親しまれる歌、世代問わず誰にも馴染む歌、ということを考え、流行ものなど甚だしく逸脱したスタイルはもちろん避ける。

そのバランスを第一に考え制作した。

歌詞もこのバランスに非常に合致するスタイルだと思う。

小学校の校歌ということで、音域、音程の歌いやすさ、音の取りやすい伴奏など考慮し、全体は歌詞の流れを大切に作曲した。